

# 日刊 動労千葉

84. 3. 16  
No. 1591

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

# 成田支部 3・25五割動員にむけて 支部総決起集会を開催



3・25五割動員の実現をめざし、各支部役員、活動家を先頭に猛烈な組織化が展開されています。

二月二〇日に支部定期委員会を開催し、「ストライキを闘う決意で五〇名を動員」を決定した成田支部は、全組合員オルグを完了し、三月五日、反対同盟の北原事務局長を招いて支部総決起集会を開催し、3・25にむけた文字通りの総決起体制をかちとりつつあります。

成田支部通信員から送られてきた報告を掲載します。

何かなんでも3・25三里塚現地へ  
——日暮支部長が檄をとばす——

成田支部総決起集会は、反対同盟より北原事務局長、本部より山口副委員長、森内特執をむかえ、三月五日、八〇余名の参加を得て行われました。

集会は、高木副支部長の司会で始められ、まず日暮支部長が3・25現地結集を熱烈に呼びかけました。

59・2以降今日まで、直接職場管理体制をはじめ、あらゆる攻撃と闘うなかで、昇給・3項8号問題に一定の歯止めをかけてきました。しかし、次の昇給時においてはどのようなかわかりません。現在の力関係を維持し向上させるためにも、支部の組織力、団結力を示さなくてはなりません。それは、3・25現地集會に何人参加するかできまいます。当局はこの結果を見て攻撃をかけてきます。三月二五日は何かなんでも現地へ結集してもらいたい。

3・25大動員とともに勝利をかちとろう  
——北原事務局長が訴える——

つづいて、反対同盟の北原事務局長より現地情勢と3・25への参加が訴えられました。

六年前、動労千葉とともに労農一体で闘ったジェット闘争を思い出します。今、中曽根は、二期工事の推進をはかっています。沼田・中曽根会談において、地域周辺住民の合意をとったといっています。当事者である私達は話し合いなど拒否しているのです。三里塚では脱落派、公団、権力とのすさまじい攻防戦がくりひろげられています。3・25は成田支部の皆さんも私達とともに大動員を貫徹し、勝利をかちとっていただきたい。

「なぜ三里塚を闘うのか」  
大須賀書記長が基調を提起

本部を代表して山口副委員長がいます。さつにたち、中曽根内閣の国鉄労働運動に目標を定めた行革攻撃と対決し反撃する突破口として3・25五割動員の重要性が訴えられました。

つづいて大須賀書記長より「なぜ三里塚を闘うのか」をテーマに基調が提起されました。

大須賀書記長は、第一に、職場の力関係を決定するのは運動路線であること。第二に、クビをかけ、分離独立してまで闘った81・3ジェット闘争は、労

働者の責務としての闘いであること。第三に、行革、財政改革、教育改革を三本の柱にすることを宣言した中曽根の攻撃は、戦争態勢構築を狙ったものであること。の三点を具体的に提起し「やるべきはやる」組合員の底力を見せつけよう」と檄をとばしました。集会は最後に決意表明が行われました。

篠原乗務員会長、大畑検・修分科会長、椿青年部長より「成田支部の最先頭で闘う」との決意表明をうけ、日暮支部長の団結がんばろうの三唱で成功裡に集会を終了しました。

## 成田支部通信員・発



決意表明に  
たっ篠原乗  
務員分科会長